

輸出事業計画

※申請者名：琉球飼料・瀬底養鶏場・エングループ
輸出拡大コンソーシアム

品 目：鶏卵

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・2020年における日本の鶏卵（殻付き）輸出量は約18,195トンで、2015年（2,312トン）と比べ、この5年間で7.8倍と大幅に増加している。
 - ・仕向け国・地域別にみると、香港が17,769トンと太宗を占め、ついでシンガポール（273トン）、台湾（約29トン）となっている。
 - ・香港においては、コロナ禍での巣籠もり需要の増加により、調理しやすい鶏卵の需要が高まり、安心・安全とされる日本の鶏卵への引き合いが一層高まった。
 - ・シンガポールにおいても、日本産鶏卵の引き合いが高まったほか、当コンソーシアムの構成員であるエングループ沖縄の現地法人が運営する飲食店で「卵かけご飯（TKG）」がシンガポール人に人気を博している。
- 以上の通り、確実に卵の生食文化が普及しつつあり、生食できる日本産鶏卵のニーズはさらに高まるものと見込まれる。

【課題】

- （生産）・海外バイヤーからの鶏卵の引き合いが強まる中、現在は生産が追いついていない。
- ・養鶏場の施設老朽化に伴い、「沖縄卵」の品質・生産量が不安定である。
- （流通）・現在は鶏卵を沖縄から空輸で輸出をしているが、輸送コストが高くなるため、低価格の現地産卵や他国産卵との価格競争力が低い。
- （販売）・卵の生食文化は、コンソーシアムの構成員であるエングループ沖縄の現地法人が運営する飲食店の「卵かけご飯（TKG）」が現地で人気を博し、広がりを見せている。今後は裾野をさらに広げるため、「飲食店を中心とした生食から、一般家庭での生食へ」と、よりいっそうの普及を図っていくことが課題。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

- ・輸出拡大に向け養鶏場の増設を検討する。

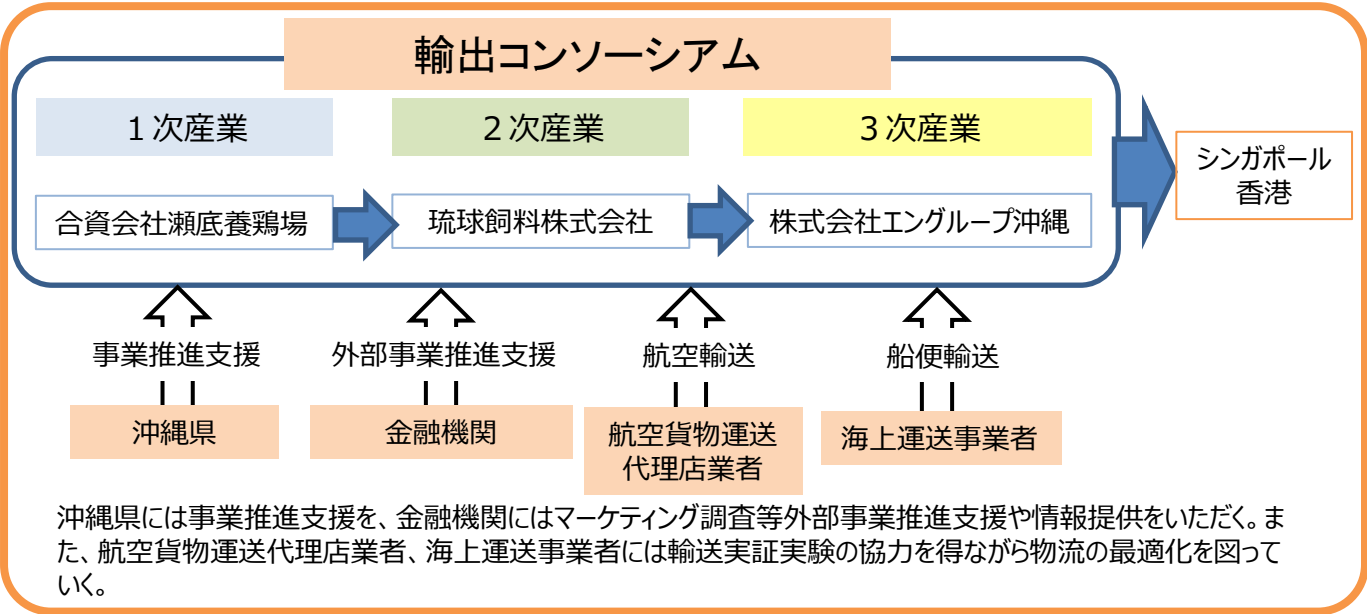
【流通】

- ・物流コスト低減のため、輸送コストの高い航空便から船便へシフトし、現地での価格競争力の向上を図る。
- ・現在福岡経由で輸出している日本産品（牛肉・豚肉・水産物・加工品等）を一旦沖縄に集約した後、主力商品である「沖縄卵」を中心として、他日本産品とともに沖縄からシンガポール・香港へ輸出する共同物流の構築を検討する。
- ・船便のリードタイムに対応できる環境整備、低温帯での輸送が必要であることから、実証実験の実施を検討する。

【販売】

- ・オリジナル卵の「沖縄卵」を現地飲食店向け、沖縄県産の鶏卵を現地小売店向けに販売し、生食可能な鶏卵市場の裾野を広げる。
- ・琉球飼料のオリジナル飼料の成分分析と「沖縄卵」の栄養値を分析し、現地で沖縄卵の付加価値を付けた新たなブランディングと販売促進を図る。
- ・茶碗蒸しやパンケーキなどといったメニューに活用する液卵の開発を検討する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

飲食店向けの拡大に加え、卸売への取り組み強化により、輸血量増加を図る。

鶏卵	現状 (令和2年)	目標年 (令和6年)
輸出額(千円)	約58,030千円	約109,592千円
輸血量 (t)	189.3 t	359 t
輸出先国	シンガポール・香港	シンガポール・香港